

成長戦略の基本的考え方

2013年5月29日

1. 成長への道筋・目標

○成長戦略の意義

○成長へのパス

設備投資促進／新陳代謝／規制改革／官製市場開放／若者・女性活躍／教育再生
技術開発／国際展開

→企業収益拡大→給与上昇・雇用増大

↑ 投資誘発 好循環 ↓ 消費拡大 ⇒成長軌道へと定着

○KPI (Key Performance Indicator) の設定

○実現管理・検証

2. 3つのアクションプラン (日本産業再興プラン、戦略市場創造プラン、国際展開戦略)

- ・「日本産業再興プラン」の実行により、産業基盤を強化。
- ・その力を基に、「戦略市場創造プラン」の実行により、課題をバネに新たな市場を創造し、「国際展開戦略」の実行により、拡大する国際市場を獲得。

(1) 日本産業再興プラン

- ・グローバル競争に勝ち抜ける製造業の復活、付加価値の高いサービス業の創出。
- ・企業が活動しやすく、個人の可能性が最大限発揮される社会を実現。

① 緊急構造改革プログラム (産業の新陳代謝)

- ・過少投資、過剰規制、過当競争の3つの歪みを根本から是正。
- ・今後5年間で「緊急構造改革期間」とし、集中的に取り組む。
- ・今後3年間で「集中投資促進期間」とし、国内投資を促進する。

民間投資拡大／企業実証特例制度／新事業投資促進／事業再編促進／
「産業競争力強化法 (仮称)」／公的支援ルール 等

②雇用制度改革・人材力の強化

- ・グローバル化、少子高齢化の中で、働き手の量と質の確保に向けた思い切った政策が必要。全員参加社会を構築。

雇用維持型から労働移動支援型への転換／民間人材ビジネス活用／若者・女性等活躍促進／待機児童解消加速化プラン／大学改革／グローバル人材力強化／高度外国人材ポイント制度見直し 等

③科学技術イノベーション

- ・省庁縦割りを打破し、戦略分野に政策資源を集中投入。
- ・戦略分野で出口志向の研究を推進し、実用化、産業化、市場獲得

総合科学技術会議の司令塔機能強化／研究支援体制充実／知的財産戦略 等

④世界最高水準の IT 社会の実現

- ・IT を活用した民間主導のイノベーションを推進
- ・世界最高水準の事業環境を実現する規制・制度改革の徹底

IT 利活用裾野拡大のための規制・制度改革／公共データの民間開放 等

⑤立地競争力の更なる強化

- ・世界で一番企業が活動しやすい国を目指し、大胆な事業環境整備を進める。

国家戦略特区（仮称）の実現／公共施設運営権等の民間開放（PPP/PFI）
温室効果ガス 25%削減目標のゼロベースでの見直し／電力システム改革 等

⑥中小企業の革新

- ・中小企業が地域経済を再生し、我が国の国際競争力を底上げ。

個人保証制度見直し／国際展開する中小企業の支援 等

(2) 戦略市場創造プラン

- ・日本は課題先進国。世界と我が国が共有し、日本が国際的強みを持つ、4つのテーマを選定。世界に先駆けて解決し、新たな成長分野を切り拓く。
- ・2030年のあるべき社会像を見据え、その実現のために、研究開発から制度改革など政策資源を一気通貫で集中投入するためのロードマップを策定。

①国民の「健康寿命」の延伸

- ・予防から治療、早期在宅復帰に至る適正なケアサイクルを確立。

○予防サービスや健康管理の充実

健康寿命伸長産業の育成／保険者によるレセプトデータの活用／医療・介護情報の電子化の推進／一般用医薬品のインターネット販売 等

○医療関連産業の活性化

「日本版 NIH」創設／保険外併用療養制度の推進／医薬品・医療機器・再生医療関連規制・制度改革／PMDAの体制強化／医療の国際展開 等

○良質な医療へのアクセス・早期の社会復帰

生活支援サービスの提供体制の強化／ロボット介護機器開発 等

②クリーン・経済的なエネルギー需給の実現

- ・低廉な価格で、必要な時に、必要な量のエネルギーが利用できる社会を実現。
- ・改革を進め、新技術や新事業を育て、果実を生むエネルギー産業を創造。

○クリーンなエネルギーの経済的な供給

石炭等火力発電・再生可能エネルギー関連環境アセスメントの明確化・迅速化／浮体式洋上風力発電の推進 等

○競争を通じたエネルギーの効率的な流通

電力システム改革実行・多様なプレイヤーの参入／蓄電池技術開発・普及拡大
次世代デバイス・部素材の開発 等

○エネルギーを賢く消費する社会

ダイヤモンドレスポンス産業確立／住宅・建築物省エネ基準の段階的適合義務化
次世代自動車開発・普及支援／水素供給インフラ導入支援・規制改革 等

③安全・便利で経済的な次世代インフラの構築

- ・先進技術を駆使し、インフラの機能を発揮し続けながら、コストも縮減し、安全性・利便性を向上。
- ・インフラ老朽化問題を先行解決し、日本のインフラビジネスの競争力を強化。

○安全で強靱なインフラの低コストでの維持・管理の実現

インフラ長寿命化基本計画の策定／センサー・ロボット・ICT 等を活用した
インフラ点検・診断／新素材の開発／宇宙インフラの整備・活用 等

○人やモノの安全で快適な移動

運転支援・自動走行システムの開発・環境整備／物流情報システム高度化 等

④世界を惹き付ける地域資源で稼ぐ地域社会の実現

- ・世界を惹きつける高品質な農林水産物や観光資源などの地域資源を活用し、世界の消費者や企業を惹き付け、自律的・持続的に発展する地域社会を実現。

○世界に冠たる高付加価値な製品を生み出す農山漁村社会

耕作放棄地解消、農地集積、大規模経営化による競争力強化／6次産業化推進
／国別・品目別輸出戦略の策定 等

○観光資源等を活かし、世界中の人を呼び込む地域社会

府省・関係機関横断的訪日プロモーション計画の策定・実行／
査証発給要件緩和／長期滞在制度導入 等

(3) 国際展開戦略

- ・積極的な世界市場展開と、対内直接投資拡大等を通じ、世界のヒト、モノ、カネを日本に惹きつけ、世界の経済成長を取り込む。
- ・トップセールスの積極的な展開により、行動力で世界市場を開拓。
- ・日本国内の徹底したグローバル化を進める。

①戦略的な通商関係の構築と経済連携の推進

- ・我が国の貿易の FTA 比率を大幅に引き上げる。
- ・TPP、RCEP、日中韓 FTA 交渉を、FTAAP のルール作りのたたき台に。
経済連携交渉推進／規制国際調和推進／戦略的な投資協定・租税条約締結 等

②海外市場獲得のための戦略的取り組み

- ・2020 年に世界市場で約 30 兆円のインフラシステムの受注を目指す。
- ・中堅・中小企業の国際展開やクールジャパン推進等により、海外市場を獲得。

○インフラ輸出・資源確保

トップセールスの実行／海外展開支援融資ファシリティの活用／JBIC 現地通貨建ファイナンス支援の強化 等

○中堅・中小企業、サービス業に対する重点的支援

関係支援機関の国内ワンストップ支援体制強化／海外ワンストップ相談窓口の創設／医療などサービス業の国際展開 等

○クールジャパンの推進

コンテンツの権利処理一元化窓口／クールジャパン推進機構等による海外放送枠確保／発信力の強化に関する「アクションプラン」の実行 等

③内なるグローバル化の推進

- ・海外のヒト、モノ、カネ、ビジネスが日本で活動するための環境の底上げを図り、多様化によるイノベーションを加速。

○対内直接投資の活性化

特区制度の抜本的改革／政府の外国企業支援体制の抜本的強化 等

○人材のグローバル化と高度外国人材の育成・活用

(付) <戦略市場創造プラン (ロードマップ) >

健康長寿・エネルギー・次世代インフラ・地域資源の4分野について、2030年時点の達成すべき社会像、成果指標、ライフスタイルを設定。

2020年頃(中間段階)の社会像、2030年までの戦略分野毎の施策展開の長期工程表を整理。

(付) <施策実施スケジュール(中短期工程表) >

全政策分野に関して、2013年度から当面3年間(2015年度まで)と2016年度以降の詳細な施策実施スケジュールを整理。重要政策群毎に政策成果指標(KPI)を設定。